

9月銅・アルミともに内需は生産調整入る アルミくず価格は8月比横ばいを予想

橋本健一郎氏(橋本金属)は、9月の銅とアルミの原料価格動向と需給についての見通しレポートをまとめたので、概要を紹介する。

まず銅については、7月は銅需要が一服し生産調整、在庫調整がみられるようになった。自動車販売は2ヵ月連続で前年の8割と伸び悩み頭打ちが確認され始め、仮需を前提とした稼働と生産にも調整の動きがでてきた。それに伴い黄銅棒など伸銅品は、生産調整が行われるものとみられる。また緊急輸入がされていた電気銅も7月の電気銅輸出が前月比36%増と大幅に増加しており、年後半に電気銅は供給余剰となるのではと予想される。

銅価格は、インドネシアのグラスベルグ鉱山でのスト、上海銅とLME銅の価格差による中国実需筋の買い増しなど相場の上げ材料はでてきているものの、9月開催予定のFOMCで追加的金融緩和(QE3)についての言及によっては大きく値を下げる可能性もあり、LME価格で8,800-9,800ドル。銅建値に関しては70-78万程度を予測するとしている。

次にアルミは、LME価格について、米国債格下げに伴うファンダメンタルズの悪化からの金融緩和もしくは期待からコモディティ(商品)自体への資金流入が期待できるが、あくまで過剰流動性資金移動による相場形成であり根本的な改善は見込めず産業金属であるアルミにおいては投機的要素が低くまた9月のFOMCの内容によっては更なるファンダメンタルズの悪化は避けられず2,350-2,500ドルを予測。

国内のアルミ原料需要は、最大の需要家である自動車メーカーの7月自動車生産台数は前年比-9%とマイナス幅は1桁にまで縮小しているものの、8月の自動車販売台数が前年比で-24%と2桁のマイナスとなっているため、低位安定するものとみられる。

9月以降のアルミ・スクラップ価格は、LME価格は前月初めとほぼおなじ水準、そしてアルミ需要は低位安定するものとみられるため、8月後半価格から据え置きを予測している。

自動車生産台数

	5月	6月	7月
生産	48万9723台	74万2431台	79万325台
前月比	67.70%	51.60%	6.50%
昨年対比	-30.90%	-13.90%	-8.90%

自動車販売台数

	6月	7月	8月
販売	22万5024台	24万1472台	21万6510台
前月比	50.30%	7.30%	-10.30%
昨年対比	-23.30%	-27.60%	-25.50%

自動車生産計画台数

	8月	9月	10月
生産計画	71万9700台	89万1100台	92万4500台
前月比	-9%	23.80%	3.70%

社会の発展とその未来に
テクノロジーで対応する

KYOWA

地球にも、人にもやさしい
KYOWA のエコ電線



タイシガイセンEM 600V EEF/F

<http://www.kyowadensen.co.jp/>



協和電線工業株式会社
KYOWA ELECTRIC WIRE INDUSTRIES CO.,LTD.

〒581 0026 八尾市曙町1丁目7番

TEL(0729)91-0818(代)、FAX(0729)91-4470